



第3号 2009年11月1日

Newsletter of Alumni Association, Chiba University

千葉大学は創立60周年を迎えます

千葉大学は昭和24年、千葉県内にあった7つの学校を包括し、新制国立大学として発足しました。それから、今年で満60年。記念すべき年を迎えます。

本学としては、このメモリアルイヤーを更なる一步の1年として、新たな未来に向かって進んでいきたいと考えております。

今回は、60年の歴史とともに成長してきた千葉大学の歴史を振り返ってみました。

様々な出来事や学部の移り変わりなど、当時の写真を交えて紹介していきたいと思っております。



千葉大学60周年ロゴマーク

■ 西千葉キャンパスの変遷



1949年当時の弥生町付近航空写真
画面下に埋め立て前の海岸線が見える。
(東京大学生産技術研究所提供)



1968年当時の工学部前の通り
この時点でまだ並木は整備されていない。
(千葉大学五十年史より)



現在の西千葉キャンパス (2008年撮影)

■ 西千葉駅前を比較—今と昔—

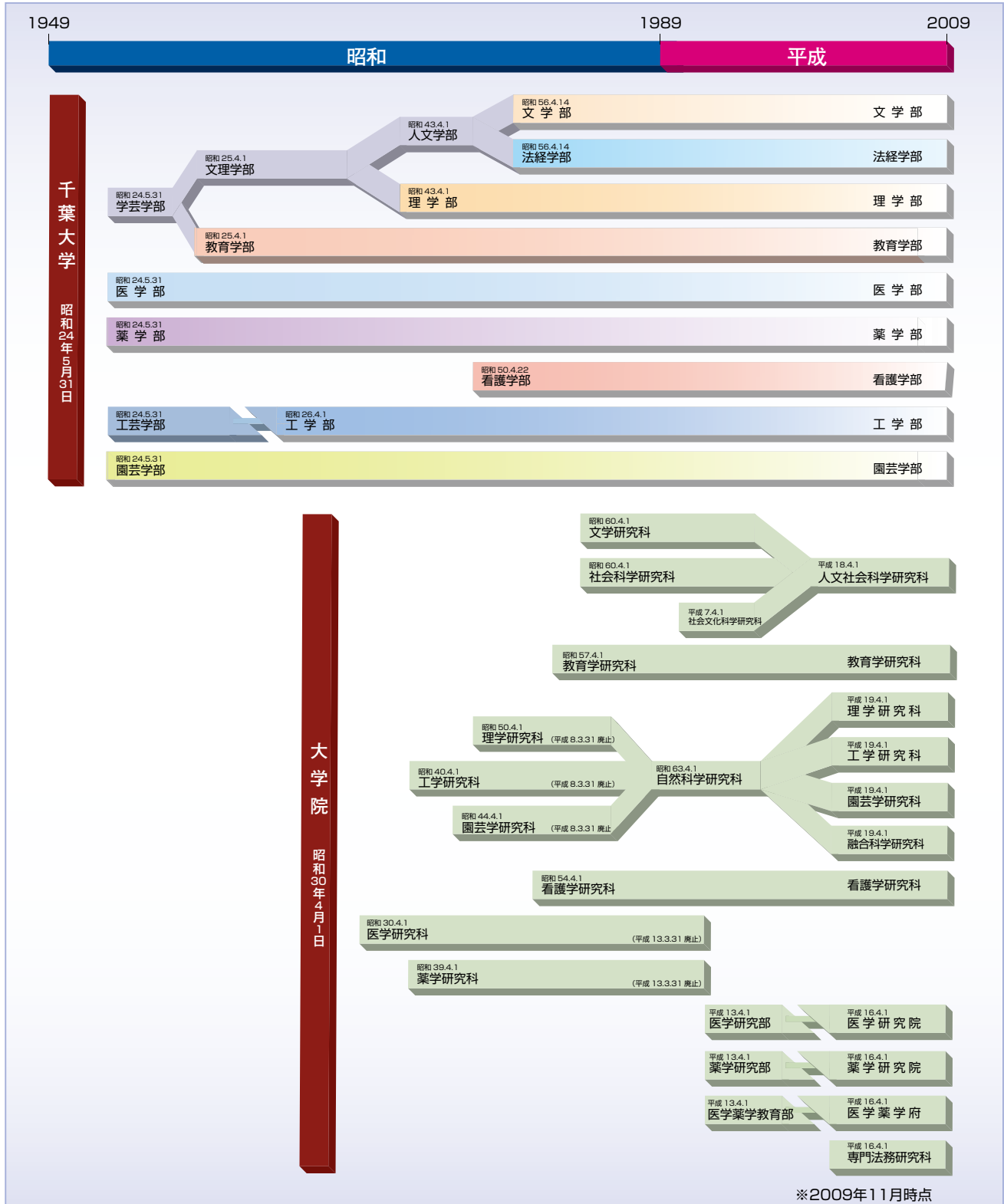


昭和46年頃



平成21年現在

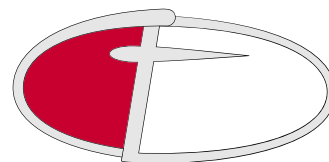
■ 学部と大学院の移り変わり



■ 公式シンボルマーク

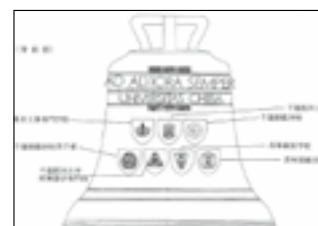
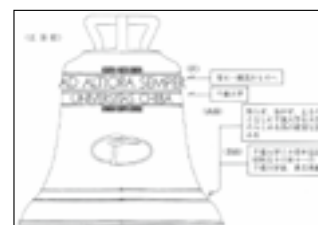
昭和24年に故赤穴宏氏（元千葉大学名誉教授）によってデザインされました。

Chiba Daigakuの頭文字であるCとDを組合せるとともに、千葉大学の千を配して構成され、輪郭は無限の生命力を象徴する植物の種子をかたどっています。また、左の紅色は情熱を、右の白色は純粋を象徴しています。



■ やよいの鐘

千葉大学創立30周年記念事業の一環として、昭和57年に、西千葉キャンパスに位置する千葉大学附属図書館本館塔屋に設置されました。「やよいの鐘」の愛称をもつこの鐘には、ラテン語で本学の理念である「AD ALTIORA SEMPER」（つねに、より高きものをめざして）の語が刻まれています。



■ 学旗

昭和35年、元工学部山崎幸雄教授の協力を経て制定。制定委員会では、学旗の威厳、重厚性を尊重することになり、千葉大学バッジの色彩を採用し、ガーネット（暗紅色）は情熱を、ホワイト（白色）は純粋さを表現するものとして染分けられ、ガーネット5、ホワイト9の比率になっています。



■ 学歌

昭和33年、学内に学歌制定を希望する気運が高まり、翌年、学歌制定委員会が発足。作詞を勝承夫氏に、作曲は平井康三郎氏に依頼。両氏が来学し、学歌制定委員、学生代表も加えて懇談会が開催され、学生の意向が十分にくみとられ反映され、昭和35年制定されました。

千葉大学 栄あるまなびや みよ 永遠の聖火燃えたつ 純情の友 楽しく競う 躍進の道 はるかにひらけ 黎明の星は光るよ 若い雲 若い鳥 黎（れい）明（めい）の 星（ほし）は光（あ）るよ 若（わか）い雲（うも） 若（わか）い鳥（とり） （三）	千葉大学 文化のさきがけ みよ 溌（はつ）然（ぜん）と叡（えい）智（ち）あつまる 探究（たんきゅう）の庭（にわ） はてなく 広く 向（むか）学の窓（まど） 清（きよ）らに高く 新鮮（しんせん）な 汐（しほ）の香（か）りよ 晴（は）れわたる 満（み）ちわたる （二）	千葉大学 心のふるさと みよ 青春（せいしゅん）の 花（はな）のよろこび 内（うち）海（かい）の和（わ）気（き） ただようところ 太（たい）洋（やう）の意（い）気（き） 寄（よ）せ来（き）るところ 房（ふ）総（そう）の 風（かぜ）は歌（うた）うよ 若（わか）い空（そら） 若（わか）い地（ち） （一） 作詞 勝 承夫 作曲 平井康三郎
--	--	---

千葉大学歌

卒業生便り 千葉だア〜い・ファイト!!

賀来 宏和

卒業生便りも、はや3回目。やなせたかし先輩、小説家の海堂 尊君（「海堂後輩」というのもおかしかろう）と続いて、三番バッターは実のところなかなかつらいものがある。

小生が千葉大学水泳部、いや、園芸学部を卒業したのは昭和52年。入学時には絶好調だった景気もその年のオイルショックで暗転。大学で初めて受けたオリエンテーションで「君たちの就職はまったく問題ない、しっかり西千葉で勉強して来い」と言った学部のとある先生。「おーい、話が違うじゃねーか」と言うわけで、大学院に行っても西千葉で泳いでいた。

3年生、関東甲信越学生体育大会が千葉県で開催された折に、当番校として千葉大学も体育会を作ろうと盛り上がった。初代体育会長は当時水泳部主将の教育学部大野君、当方は副将で女房役をつとめる。少しく自慢できることは、我々は栄えある千葉大学体育会創設メンバーであることであろう。



体育会水泳部合宿風景（初代体育会長の顔も）

*

楽しくて楽しくて楽しかった学生生活。こんな暮らしも永遠に続くわけではない。こりゃいかんと猛然と勉強を始めて、国家公務員になってしまった。180度の転換である。

今でこそ公共事業も後ろ向きに見られがちで

あるが、当時の建設省、俺たちが国を創ると云う自負にあふれていた、……と思う。色んな仕事をさせてもらい、つらくもあつたがこれまた楽しい。転機は1990年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」。自ら手を上げて担当したおかげで公務員らしからぬ経験をさせてもらった。



プロデュースした高齢者介護施設『プレジールヴィラ市川』屋上庭園

*

我が家の遺伝的特徴かどうか、どうも長続きしない。政治にも興味を持って放浪。諸先輩に



『浜名湖花博』にてプロデューサー特別ガイドツアー中の筆者



『浜名湖花博』にて秋篠宮同妃両殿下にご説明（一番左筆者、右側2名も千葉大学卒業生）

迷惑かけっぱなしである。人生のジェットコースターをしばらく経験した後に、行きついた現在の仕事がある。博覧会のノウハウを存分に活用して、花や緑をテーマにしたイベントや施設の企画プロデュースを行っている。

*

2004年の「浜名湖花博」の総合プロデュースもやった。2005年わが国で久方ぶりの万国博覧会「愛・地球博」の会場を彩った花々もわが社の仕事の一つである。

来年は「マスコットキャラクター」として断然No.1の「せんと君」で有名な平城遷都1300年記念事業の花の演出プロデュース、神奈川県立花と緑のふれあいセンター「花菜ガーデン」プロデュース、そして、東京インターナショナルフラワー&ガーデンショーのプロデュースなどなど。「花菜ガーデン」は全国初のPFI事業による農業公園であり、当社もわずかながら出資する。

*

仕事で全国を回ると千葉大学の卒業生に巡り合う。千葉大生はシャイである。全学はおろか学部同士でさえ徒党を組むことを潔しとしない。美学に浸るのもよいが、同窓の団結力も時にはまた必要であろう。そういえば、子どもが小さい頃見たアンパンマンのビデオはまだあるし、今、娘の本棚には「ジェネラル・ルージューの凱旋」が並んでいる。この人、とうちゃんの大先輩と大後輩。人生は縁である。

● 賀来宏和プロフィール

- ・株式会社グリーンダイナミクス代表取締役プロデューサー、千葉大学大学院園芸学研究科特任教授、千葉大学経済人倶楽部「絆」副会長、英国王立園芸協会日本支部理事等
- ・1977年、千葉大学園芸学部造園学科卒業。
- ・1979年、千葉大学大学院園芸学研究科修了。同年、建設省入省。
- ・1992年、建設省退官。
- ・株式会社グリーンダイナミクスを設立し、花のイベント、テーマ施設等の企画運営プロデュースや公共施設の指定管理を実施、子会社ペレニアルはトップレベルの多品種調達能力を活用した植物空間の設計施工、維持管理とともにバラの育種生産では日本でもユニークな存在で世界を目指す。庭をテーマにプロデュースした2つの高齢者介護施設は好評で入居希望者が待ち状態。

校友会海外部門

海外部門事務局より海外支部の設立についてお知らせします

■ 千葉大学校友会海外支部設立の主旨

千葉大学に留学し、海外で、そして母国に戻ってさまざまな分野で活躍している留学生は数多く存在しています。また、海外を拠点として活躍している日本人卒業生も年々増加しています。

千葉大学海外校友会海外部門は、海外に在住しているあるいは勤務している帰国留学生や日本人卒業生との連携を深め、千葉大学の発展に寄与することを目的として、2006年に新たな部門として設立されました。

■ 千葉大学校友会海外支部の特徴およびその機能

同窓会海外支部は元来、母校の発展への支援あるいは、会員相互の親睦に主体が置かれていることが多いようです。千葉大学の海外支部はそれらの活動に加え、千葉大学の教育・研究活動を支える母体として機能することも目指しています。具体的には、

- (1) 千葉大学の教育・研究上の国際的ネットワークを構築し、優秀な人材と最先端の学術情報の集約拠点とする。
- (2) 母国の大学で教鞭をとる帰国留学生の大学や研究機関との連携を強化し、千葉大学学生が海外で学ぶ機会を促進する。
- (3) 海外からの優秀な留学生を獲得するため、校友会海外支部と千葉大学が連携する。
- (4) 校友会海外支部と産業界、行政の三者が連携し、産官学の海外ネットワークを構築する。
- (5) 校友会海外支部における帰国留学生は、千葉大学での留学経験を生かし、母国の発展に貢献する。
- (6) 交流を通して会員相互の親睦を深め、千葉大学への支援動機を高める。

■ 運営組織

1. 海外部門本部事務局

海外部門事務局は千葉大学国際教育センター内に設置されています。本部事務局は海外支部との連絡を密にし、全世界に広がる支部のネットワークを通して海外部門の目的を遂行します。

2. 海外支部

海外支部は、それぞれの支部近郊に在住する、あるいは勤務する千葉大学の帰国留学生や日本人卒業生を中心に構成されます。

それぞれの支部は地域の環境、帰国留学生数、会員の属性など支部の事情に応じて支部独自の活動を行います。

■ 海外支部の設立と海外ネットワーク

2007年8月に中国北京で「千葉大学中国校友会」の設立総会が開催されたことは会報で紹介されました。

2007年の中国校友会の設立を機に、それぞれの地域が支部の設立にむけて動き出しました。

北京での「中国校友会」の設立に参加した帰国留学生から、北京以外の地域でも支部を立ち上げたいという声が高まり、中国では、設立時の中国校友会は「中国校友会北京支部」となり、その後「南京支部」が設立されました。今「湖南支部」「上海支部」「新疆支部」の立ち上げ準備が進められています。大国中国ならではの支部設立の在り方です。

千葉大学校友会海外支部は、活動内容の一つでも満たすことができれば設立可能であるため、例えば帰国留学生の少ない地域でも設立が可能になっています。全世界の帰国留学生からの千葉大学への情報ネットワークの整備を目指す観点からも、小さな支部も積極的に立ち上げて欲しいと考えています。

千葉大学校友会海外部門（各国支部）

Chiba University Alumni Association International Branches



今現在での設立状況、準備状況を上述の世界地図の中に示しました。

規模の大小にかかわらず、現在は中国、ベトナム、カナダ、オーストラリア、スウェーデン、ハンガリーで海外支部が立ち上がっています。

また、ドイツ、フィンランド、ポーランドといったヨーロッパ諸国、イラン、ヨルダン、エジプト、クウェートといった中東諸国での設立準備が進められています。アジアでは、インドネシア、タイ、フィリピン、台湾、韓国が、南米ではペルーの帰国留学生が支部立ち上げの準備を進めています。

千葉大学のネットワークを世界に広げ、多くの校友のリソースを千葉大学の発展のために活

用できることを願っています。

そのためには、千葉大学で学んだことを誇りに思えるような大学でなければならないことを、教員の一人として実感しています。

（千葉大学国際教育センター教授 新倉 涼子）

—チャレンジを支え、人を育てる基金です—

千葉大学 SEEDS 基金

<http://kikin-chiba-u.jp/>

寄附のお申し込みは、上記ホームページをご覧ください。

千葉大校友会 SNS 「Curio」 の活動

—インターネットによる絆づくりのために

千葉大学校友会は2007年秋に千葉大学の卒業生・在籍者（在籍経験者）、教職員、および在校生を対象とした独自のSNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）Curioを立ち上げました。現在国内には数多くのSNSがありますが、特定の大学の関係者のみに会員を限定し、同窓会組織自体が非営利目的で運営しているSNSはCurioのみです。

SNSは登録された会員のみが利用できるインターネット上の情報交換手段です。会員になれば、掲載されている内容が閲覧できるだけでなく、自分のページを設けて日記や意見を他の会員に発信することや、会員同士の意見交換のための掲示板を設けることもできます。SNSの特徴は双方向であることです。そしてCurioというSNSでは、学生時代からの交流をインターネットの上で維持し、さらには新たな知人を見つけ出すこともできるでしょう。一方、Curioではすべての会員が大学在籍時の氏名を公表しており、正体不明の人物による「荒らし」を防ぐための継続的なモニタリングも行われています。活発な情報交換と個人情報の保護という2つの要素を両立させ得る「双方向型の同窓会会員名簿」、それがCurioです。

現在のCurio会員数は約2,000名（2009年10月時点）、書き込まれた日記の数も1,000件を超え、少しずつですが千葉大という共通項を持つ会員の間での情報交換の場として使われるようになってきました。また、会員同士の情報交換を促すために、季節のグリーティングの呼びかけや「四方山話（統一テーマでの日記）」の募集も行っています。

また、Curioのシステム自体に対しても、よりよい絆づくりのツールとするための改良が続けられています。この1年間では、他の会員が書かれた日記を見つけやすくするための画面デザインの変更や、大きな文書ファイルのCurioを通じた公開・配布を可能にするカスタマイズが行われました。また、会員の皆さんからの要望を採り入れるための意見募集と検討も継続的に行われています。

このようなCurioの活動には学外からも関

心が向けられています。今年度は電子情報通信学会やPCカンファレンスでCurioに関する活動内容の発表を行うことができました。また、SNSを用いた同様の試みを検討されている複数の大学関係者も情報収集のために千葉大学を来訪されています。

しかしながら、現在のCurio会員はまだまだ千葉大関係者のごく一部に過ぎません。「双方向型の同窓会会員名簿」としての役割を果たすためには、もっと多くの皆さんにCurioの会員になっていただくことが必要です。そのためには、営利目的ではない以上やみくもに拡大する必要はないとはいえ、会員の皆さんに最低でも月に1度は閲覧していただけるよう、内容の充実を図る必要もあります。

そこで、今後の方針としては、すでに開設されている各同窓会のホームページとCurioとの連携をお願いし、新たに設立された千葉大学経済人倶楽部「絆」との相互交流を深めていく予定です。さらにCurioの改善に関する意見を会員の皆さんから積極的に募集し、その実現を図ってまいります。また、現役学生の皆さんの就職活動の場としても利用できるような仕組みも検討中です。

多くの皆さんのCurioへのご理解とご登録をお願いいたします。

千葉大学校友会 SNS 「Curio」 の詳細・登録方法については、下記のサイトをご覧ください。

<http://www.chiba-u.ac.jp/sns.htm>



千葉大学校友会報 第3号

2009年11月1日発行

千葉大学校友会

住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL：043-290-2109、3902、3903（内線4040）

FAX：043-284-2550

E-mail:koyukai@office.chiba-u.jp